（写し）

2022年7月28日

枚方市長　伏見　隆　様
枚方市教育委員会教育長　尾川　正洋　様

連合市民の会

今後の枚方市の支援教育についての要望書

4月27日付け文科省から「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」の通知を受け、枚方市教育委員会は、5月に「今後の枚方市の支援教育について（お知らせ）」「枚方市の支援教育（案）」というプリント2枚を配布することによって、保護者への通知を行いました。

「すべての子どもたちが、地域でともに育ちあうよう『ともに学び　ともに育つ』教育の充実に努めている」と記しながら、その内容は、「現在支援学級での授業時数1日1時間以上を2023年度から授業時数を週の半分以上（1日2～3時間以上）とする」「授業時数週に1時間～8時間の通級指導教室を拡充する予定」というものでありました。

この通知は、「学びの場」に関する大きな変更を意味するものであったにもかかわらず、教職員への説明もなく、保護者へのプリント配布のみという不誠実な対応であったため、問い合わせ先となっている学校教育部児童生徒支援課及び学校にも、保護者からの問い合わせが多くあり、その疑問や不安に対して、十分に応えられていない状況で、学校現場に大きな混乱を招くことになりました。

結果、6月に再度、内容を補足した「今後の枚方市の支援教育について（お知らせ）」を配布、保護者説明会を行うことになりました。しかし、保護者説明会資料など、日を追うごとに示される内容に変化があるなど、市教委に対する不信感が募り、保護者の理解を得るまでには至っていないのが現状です。

よって、連合市民の会として、以下のことを要望いたします。

記

1. 「今後の枚方市の支援教育について」で示された支援学級での授業内容及び時数の変更、それに伴う通級指導教室の利用について等、不十分な内容であったにもかかわらず説明も十分に行われなかったことは乱暴なやり方であったことは否めない。その課題整理をおこない、「学びの場」の拙速な変更を行うのではなく、撤回も含めて再検討を行うこと。

2. 支援学校を選ばず、「障害」の有無に関係なく、集団の中で育ちあうことを願い、地域の学校に入学されている子どもたち及びその保護者の思いに寄り添うこと。

以上